

8.2 土壌

8.2.1 調査事項

調査事項は、表 8.2-1 に示すとおりである。

表8.2-1 調査事項（東京2020大会の開催後）

区 分	調査事項
予測した事項	・土壌汚染物質(濃度、状況等)の変化の程度
予測条件の状況	・施設の用途
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・診療所については、床面に浸透防止材料を用い、薬品の地下浸透を防止するほか、馬診療所の薬品については、獣医師が適切に管理し、使用済みの馬用医薬品は適切に処分する。 ・装蹄所については、有害物質は取り扱わない。 ・厩舎地区出入口の消毒薬設置個所等の床面は、コンクリート等の不浸透性材料を用いる。

8.2.2 調査地域

調査地域は、計画地とした。

8.2.3 調査手法

調査手法は、表 8.2-2 に示すとおりである。

表8.2-2 調査事項（東京2020大会の開催後）

	調査事項	土壌汚染物質(濃度、状況等)の変化の程度
	調査時点	2021年の適宜とした。
調査期間	予測した事項	2021年の適宜とした。
	予測条件の状況	2021年の適宜とした。
	ミティゲーションの実施状況	2021年の適宜とした。
調査地点	予測した事項	計画地とした。
	予測条件の状況	計画地とした。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とした。
調査手法	予測した事項	関連資料の整理による方法とした。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。

8.2.4 調査結果

(1) 調査結果の内容

1) 予測した事項

ア. 土壌汚染物質(濃度、状況等)の変化の程度

事業の実施に伴い、従前と同様に診療所や装蹄所が整備された。診療所の床面には浸透防止材料を用いており、診療所で使用する薬品の地下浸透を防止する。今後、施設の稼働の際は、薬品については、獣医師が適切に管理し、使用済みの馬用医薬品は適切に処分する。また、装蹄所では、有害物質は取り扱わない。

2) 予測条件の状況

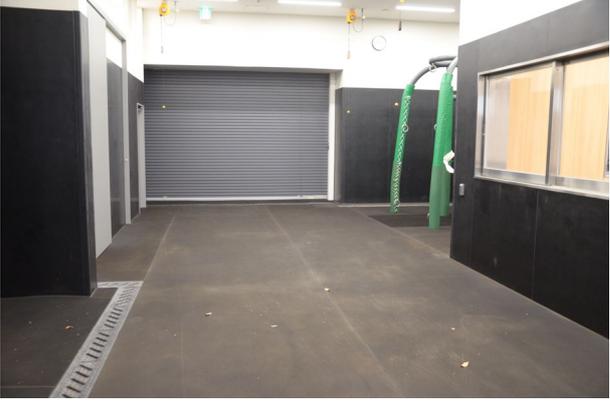
ア. 施設の用途

施設の用途は、「4. 馬事公苑の計画の目的及び内容 4.2 内容 4.2.3 事業の基本計画（恒久施設）（1）配置計画」（p.7 参照）に示したとおりである。

3) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.2-3 に示すとおりである。なお、土壌に関する問合せはなかった。

表8.2-3 ミティゲーションの実施状況（東京2020大会の開催後）

ミティゲーション 実施状況	・診療所については、床面に浸透防止材料を用い、薬品の地下浸透を防止するほか、馬診療所の薬品については、獣医師が適切に管理し、使用済みの馬用医薬品は適切に処分する。
診療所については、床面に浸透防止材料を用いており、診療所で使用する薬品の地下浸透を防止する。今後、施設の稼働の際は、馬診療所の薬品については、獣医師が適切に管理し、使用済みの馬用医薬品は適切に処分する。	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>馬診療所</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>馬診療所の床面</p> </div> </div>	
ミティゲーション 実施状況	・装蹄所については、有害物質は取り扱わない。
装蹄所では、有害物質は取り扱わない。	
ミティゲーション 実施状況	・厩舎地区出入口の消毒薬設置箇所等の床面は、コンクリート等の不浸透性材料を用いる。
厩舎地区出入口の消毒薬設置箇所等の床面は、コンクリート等の不浸透性材料を用いた。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <p style="text-align: center;">不浸透性材料を用いた床面</p>	

(2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

1) 予測した事項

ア. 土壌汚染物質(濃度、状況等)の変化の程度

事業の実施に伴い、従前と同様に診療所や装蹄所が整備された。診療所の床面には浸透防止材料を用いており、診療所で使用する薬品の地下浸透を防止する。今後、施設の稼働の際は、薬品については、獣医師が適切に管理し、使用済みの馬用医薬品は適切に処分する。また、装蹄所では、有害物質は取り扱わない。

以上のことから、予測結果と同様に、施設等の持続的稼働に伴い、新たな土壌汚染が生じるおそれはないと考える。